

わたしは彼をいやす

イザヤ書 57 : 17 - 19



司祭 ヨハネ 井田 泉

2021年7月18日
聖霊降臨後第8主日

聖光教会にて

「わたしは彼の道を見た。

わたしは彼をいやし、休ませ

慰めをもって彼を回復させよう。」イザヤ 57:18

神が、ひとりの人を見つめておられます。あるいはひとりの人ではなくて集団なのかもしれませんが、まずはひとりの人として読んでみます。

「わたしは彼の道を見た。」

「彼の道」と言われています。彼が生きてきた歩み。これまでのありよう。今の彼の現実、そして彼の内面——それらすべてを神がご覧になりました。

彼の道——この人はどういう生き方をしてきたのか。ひとつ前の 17 節にはっきりと書かれています。

「貪欲な彼の罪をわたしは怒り、彼を打ち、怒って姿を隠した。彼は背き続け、心のままに歩んだ。」57:17

彼は一言で言って貪欲だったのです。持っている上にさらに人からむさぼり取って、自分のために富に富を増し加える。人を苦しめ、人を貧困に追い込んでまで自分の欲を満たしていく。こういう彼のあり方に対して神は怒られました。

「貪欲な彼の罪をわたしは怒り、彼を打ち、怒って姿を隠した。」57:17

神は彼を打って懲らしめられたけれども、なお彼の貪欲はやみません。ついに神は彼を放置し、ご自身を彼から隠してしまわれました。それでも彼は「背き続け、心のままに歩んだ。」

彼は神に背きつづけ、自分の貪欲な心のままに歩んだということです。

しかしそれから年月を経て、彼の行き着いた所はどこだったでしょうか。破滅の瀬戸際です。彼は自ら貪欲の火に身を焼かれ、疲れ果て、平安はなく、深く病んでしまいました。これまでの自分を後悔する思いは強く、嘆き苦しんでいます。けれどもはや自分から神に救いを求める力はありません。これが、彼の陥った現実です。

このような彼に対して、神さまはどうなのでしょう。かつて怒って彼から姿を隠された神は、もう彼を顧みてはくださらないのでしょうか。そうではない、というのが今日のイザヤ書です。

何と言われていたのでしょうか。18 節をもう一度確かめてみます。

「わたしは彼の道を見た。」

神さまは彼のことを忘れず、もう一度彼を見つめられました。彼の背いた歩み、今の現実、心の内側まですべてを神は見て知

られました。深く病んで疲れ果てた彼。破滅の瀬戸際にあつて身動きもできなくなった彼。神を呼ぶこともできない彼。

このような彼への憐れみが神さまの中に沸き立ってきます。そしてこう言われます。

「わたしは彼をいやし、休ませ

慰めをもって彼を回復させよう。」イザヤ 57:18

救いを必要としているのにそれを自分から求めることのできない彼のために、彼の必要としている一切を神さまはなそうと言われるのです。

「わたしは彼をいやし、休ませ

慰めをもって彼を回復させよう。」イザヤ 57:18

神の憐れみの中で、彼は休ませられ、彼の深い病と傷はいやされ、回復させられていきます。

ひとりの人に注がれていた神さまの視線はやがて広げられて、その周りの人々を神さまはご覧になります。声が聞こえます。嘆いている人々が何と多いことでしょうか。その人たちのためにも神の憐れみは沸き立ちます。

「民のうちの嘆く人々のために

わたしは唇の實りを創造し、与えよう。」57:18-19

「唇の實り」とは何でしょうか。おそらく、これまでは人々の唇から出て来なかった喜び、感謝、賛美の声ではないでしょ

うか。

「わたしは唇の実りを創造し、与えよう。」

神は喜びを造りだし、その唇に喜びの声を与えられるのです。

「平和、平和、遠くにいる者にも近くにいる者にも。」 57:19

これは神の呼びかけの声です。平和を失った人々、平和を奪われた人々、遠くにいる者にも近くにいる者にも、神は平和を呼びかけられる。

「あなたがたに平和があるように」

「あなたに平和があるように」

この段落の締めくくりに、さらに神さまの呼びかけが響いています。

「わたしは彼をいやす、と主は言われる。」 イザヤ 57:19

彼——先ほどの人です。しかしこの「彼」の中に、男性も女性も、子どもも若者も年配者もいます。この「彼」の中にわたしたちがいます。わたしがいます。「わたしはあなたをいやす」「わたしはあなたがたをいやす」と神さまはおっしゃるのです。

今日はイザヤ書第 57 章から、神のいやしの約束を聞きました。これは紀元前数百年前に、ある預言者によって伝えられた言葉です。けれどもそれで終わったのではありませんでした。神の

いやしの約束、いやしをもたらす神の憐れみはそれから数百年後に、人の姿、形をもってわたしたちのところに現れました。それがイエス・キリストです。

今日の福音書、マルコ 6:34 にこう記されていました。

「イエスは舟から上がり、大勢の群衆を見て、飼い主のいない羊のような有様を深く憐れみ、いろいろと教え始められた。」

「平和、平和、遠くにいる者にも近くにいる者にも。

わたしは彼をいやす。」 イザヤ 57:19

この呼びかけは、イエス・キリストによってわたしたちの間近に迫るものとなったのです。

祈ります。

神さま、かつてあなたがひとりの人を憐れみをもってご覧になったように、わたしたちを憐れみをもってご覧ください。わたしたちの抱える嘆き、過ち、傷、病をご覧になって、わたしたちをいやしてください。わたしたちをあなたの平和で満たしてください。主イエス・キリストによってお願いいたします。
アーメン